

口腔生化学実習（半田慶介）

Training of Oral Biochemistry (Keisuke Handa)

キーワード

- ①マウス
- ②水平性骨欠損モデル
- ③垂直的骨欠損モデル
- ④根尖病変モデル
- ⑤組織解析

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

授業概要

各種疾患の骨再生モデル（水平性、垂直性、根尖病変）の作成実習を行う。in vitroでは観察できない生体における骨再生モデルを理解するための動物実験を行うことで、それぞれの疾患の特性および新規治療法や材料開発のためのツールとして身につけることを目標とする、また形態学的な評価を行うため、組織切片作成から観察までを実習して専門知識を高める。

授業科目の学修目標

う蝕や歯周病に継発する各種骨欠損様式を理解することで骨再生に必要な因子やメカニズム解明を目指すため、本実習を通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ①研究計画立案実習 10コマ
実習を通じて問題発見能力の育成や研究計画立案の基本を教授する。
- ②ラット骨欠損モデル作成実習 25コマ
ラットを用いた水平性、垂直性骨欠損および根尖病変モデル作成の手技を取得する。
- ③形態学的解析基礎実習 25コマ
形態学的観察のため、モデル動物のサンプル回収から薄切切片作成、およびヘマとキシレンエオジン染色の手技を教授する。

実習担当教員 半半田慶介、居作和人、佐藤武則

教科書および参考書

配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実験プロトコルを指導教員に確認し、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ①課題に対して適切な研究計画の立案ができる。
- ②骨欠損の理論を理解し、モデル形成が実践できる。
- ③組織観察の理論を理解し、実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	0%	10%	0%	30%	60%	0%

評価の要点

- ・成果は、授業計画の3項目について発表資料を提出する。10%×1回=10%
- ・口頭試問は授業計画の3項目について適宜口頭試問を実施する。10%×3回=30%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。20%×3回=60%

理想的な達成レベルの目安

実習の理想的な達成レベルは80%以上とする